ブルーベリーの温暖地での高品質化に向けた栽培および育種研究

【研究概要】

ブルーベリーは労力のかかる個別収穫が必要であること、暑さ・乾燥に強く果実品質の優れる品種がないことが課題である。ブルーベリーの交雑育種研究ではこれまで種間雑種の一部が単為結果性かつ房取り適性を有することを明らかにし、耐暑性・耐乾性の優れる日本在来野生種とブルーベリーとの節間雑種作出に成功した。そこで、温暖地での高品質・省力栽培を可能とする新品種を育成するとともに、温暖地適応性や房取り適性を有する雑種の効率的な作出・評価法を確立するための試験に取り組んだ。

（１）新品種に適した栽培技術の確立

① コンテナ栽培定植３年目の着果制限が樹体生育、収量および果実品質に及ぼす影響について調査した。樹体生育と収量への影響は判然としないが、果実品質は向上する傾向であった。

② TB-02の房取り収穫した果実の品質について調査したところ、個別収穫した完熟果と同等の食味であることが示唆された。

（２）新系統の作出

① 節間雑種等10種類の栽培特性を露地で評価したところ、耐寒性が低い等により生育は「ティフブルー」より劣る傾向であった。

② 雑種集団について６年生時のデータを解析し、大粒・良食味の個体作出のために有望な交配親や交配組合せの知見を得た。また前課題から選抜中の有望系統について特性調査を行い、選抜を進めた。